

米倉教公の週間為替市場見通し

2/22 日週号

『G20 で各国協調できるか！』

ドル/円予想レンジ 111.00 - 114.50 円

■前週の市場動向

前週のドル/円は上値の重い展開が続いた。週明けは日経平均が 1000 円超の上昇となりリスク選好のドル買いが先行した。安倍首相が『為替の急激な相場変動は望ましくない。必要に応じて対応してもらいた』お発言したことで市場介入などの警戒感が強まりドル買いが強まったが、一目均衡表週足の雲の下限となる 114.955 円が意識された。114.87 円まで上昇後は利益確定売りに下落基調となった。産油国の減産に先行き不透明感が強くなり原油価格が乱高下すると株価も不安定となり、ドル/円も上下にボラティリティが高まった。FOMC の議事要旨で経済の下振れリスクなどが指摘されるとドルが売られる場面があったが、当局による市場介入の警戒感もあり下値は限定的だった。ただ、日々上値を切り下げる展開となり、米長期金利が低下したことや株価下落から一時 112.26 円まで下落した。週末引け値は 112.56 円となった。

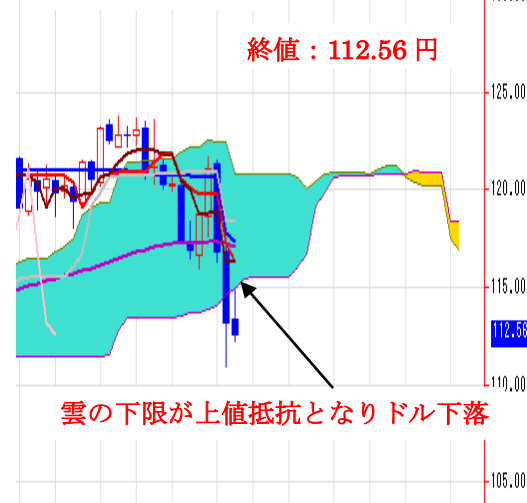
■今週の注目点：26-27 日の G20 で市場安定に向け各国が協調できるか

世界的に金融市場が不安定のなか、「国際的な市場混乱の抑制」や「為替相場の安定化」で、各国が協調できるかが大きな焦点となる。会合前の事前報道や実際の会合で、協調進展の動きが見られると、リスク選好の株高・ドル高が進む可能性がある。しかし、協調が失望に終わったり、表向きだけの協調合意で実効性が乏しいと市場が警戒すると、改めてリスク回避の円買いや日本株売りが激化する可能性があり注意が必要だ。ただ、前週の米国経済指標では一部改善も見られたことや、米国株は前週には週間で 418 ドル高と下落が一服、さらに産油国による原油価格の下落阻止に向けた協調行動など前向きな材料も見られ始めた。FRB の利上げ遅延観測による米長期金利低下やドル安が懸念材料となる。今後の FRB の利上げペースを探るうえでは、23 日のフィッシャーFRB 副議長の講演での発言が注目される。

■テクニカル的な見解

2月16日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+43,232 から+47,901 へと円の買い持ちが増加し3年ぶり高水準を維持している。日本や欧州がマイナス金利を導入し一段の緩和に動くなか、米国が追加利上げを続けることは非常に困難との見方からドル高調整の円買いが続いている。前週一目均衡表の週足雲の下限トライしたものの、上抜けすることが出来ずに下落基調となった。また、日々上値を切り下げながら円高が進行していることで、円高圧力が強まっている。一方で、円高局面では政府日銀の口先介入や日銀によるレートチェックなどもあり、ドルの突っ込み売りも警戒されている。そのため、G20 が終了するまではレンジ相場を予想する。下値の目途は 12 日の安値 111.63 円や 11 日の安値 110.96 円となる。上値目途は 19 日高値 113.38 円、18 日高値 114.32 円、17 日高値 114.50 円が意識される目途となる。

ドル/円：週足



★先週の気になる出来事

サウジとロシアが減産協議会合という話があったが、個人的にはまともな思いがなかった。何故なら北半球にあるロシアは現在マイナス 40 度の極寒である。ロシア産の原油は水分が多いことから、原油量を減らしたり、止めてしまうと水分が凍りパイプラインを棄損させてしまう可能性がある。また、ロシアでは原油タンクが不足していることから、莫大なお金をかけてタンクを増設する必要があり、直ぐには減産できないからである。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。